令和３年度　第５回東大和市まち・ひと・しごと創生会議　書面会議要録

会議名　第５回東大和市まち・ひと・しごと創生会議
開催日時　令和４年２月１６日（水）～２月２３日（水）（書面会議による開催）
開催場所　書面会議
意見書提出者　（委員）牧瀬委員（座長）、小島委員（副座長）、目黒委員、冨田委員、水上委員、齊藤委員、高橋委員、永田委員、堀江委員、土屋委員、馬場委員、安永委員

（事務局）神山企画財政部長、田代企画財政部副参事（総合戦略推進等担当）
神山企画課政策推進担当係長
会議の公開・非公開　書面会議
会議内容　（１）第２期東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプラン（案）について（意見聴取）
（２）第２期東大和市ブランド・プロモーションアクションプラン（案）について（意見聴取）

主な意見

（１）第２期東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプラン（案）について（意見聴取）

①　アクションプランの「「東大和市まち・ひと・しごと創生会議」における第１期総合戦略の取組の検証」に対する意見等について

委員
　前回の会議で意見を表明したので、本件案で良い。
　一点挙げるとすれば、「人口について」の社会増減に関してであるが、当市は、その対策として、今後、年３００人程度の社会増目標を掲げ、将来的には約３，０００人の減少抑制を図ることを目指している。この取組は評価できる内容である。
　最近は、周辺近隣市町村でも、増加対策を工夫し、強化、注力しており、度々メディアに取り上げられている。今後地域間の競争が厳しくなることも予想されるため、各地の情報把握の必要性も述べた。
　そこで、当市の今後の取組姿勢を評価する視点からも「危惧されるのは、・・・出生数の減少である」の次に、「○　引き続き、周辺環境等の状況や変化に対応した対策を推進することが期待される」とするのは、どうか。

事務局：
　ご意見を踏まえ、加える方向で検討したい。

委員：
　追加された令和３年度の出生数・死亡数の推移データを確認して、その出産数の低下に驚いた。出産数の現状は、コロナ禍による出産控えなのかもしれないが、それが理由であるのであれば、たとえコロナが収束しても、この数年での人々のコミュニケーション不足、行政への不信感、病気への不安などから、すぐに改善していくものではないと思われる。
　コロナ感染だけでなく、今後も起こりうる感染症や災害によって、予測不可能である事柄に対応する行政の力、また自治会、学区、地域単位でのコミュニケーションのあり方を模索し、行政からプッシュしていくようなアクションプランの企画、継続を期待している。

事務局：
　新型コロナウイルス感染症と影響を考慮しつつ、安心して出産・子育てができる環境を整備していくことが重要であると考える。

委員：
　この内容でよいと思う。
　コロナ過で不安に思う妊産婦のフォローは必要だと思う。

委員：
　アクションプラン１８ページの「イ　基本目標２　○創業については、・・・の中に、創業塾の開催の後に、「及び創業チャレンジ施設「チェレステガーデンの活用により」を追記したらどうか。

事務局：
　ご意見を踏まえ、加える方向で検討したい。

委員：
　アクションプランの１７ページの「（３）①人口について」の「危惧されるのは、新型コロナウイルス感染症の影響の可能性があるが、出生数の減少である」の部分について、出生数の減少の理由として、新型コロナウイルス感染症の影響によるものか否か、根拠となる数値等があると納得ができると思う。とはいえ、何の数値とすれば説得力があるかは不明である。
　東大和市だけではなく全国的にコロナ禍で出生数が減少しているのであれば、減少の理由として、コロナウイルス感染症の影響の可能性も納得できる。

事務局：
　出生数の減少については、厚生労働省の人口動態統計が発表された際に、全国的な傾向として、新型コロナウイルス感染症による影響が指摘されている。アクションプラン４ページの「（２）出生数・死亡数の推移」の説明文で、全国的な傾向として表記している。

委員：
　アクションプランの１７ページの　ア　基本目標１の２項目「婚姻件数は増加しており、婚姻件数が増加すれば子育てにつながり」について、近年、「ＬＧＢＴＱ」による多様性に基づく婚姻がわずかではあるが、増えてきた。婚姻を法的に認めようとする自治体も徐々に増え始めている。つまり、出産につながらない婚姻が今後増える可能性もあり、この場合、婚姻数は増えても子供は増えないから、子育てにつながらない。婚姻の定義を、原則として出産が伴う従来の男女の婚姻としなければ、このくだりは意味をなさないのでは。「日本一子育てしやすいまち」に繋がらない。生き方の多様性とは別次元で考えないといけない。

事務局：
　創生会議委員のご意見を踏まえた表記であり、意味として出生が伴う男女の婚姻として捉えている。多様性に基づく婚姻についてのご意見については、今後の参考としていきたい。

②　上記①以外の項目について

委員：
　アクションプランの２ページの「第２期総合戦略アクションプランとＳＤＧｓ」について、ＳＤＧｓで掲げられている１７のゴールのうち、今回の第２期総合戦略アクションプランは、「11 住み続けられるまちづくりを」の達成に取り組んでいくと書かれている。今後は、こ

のゴールだけでなく、他１６のゴールについても、どの施策がそのゴールにつながるのか、具体的にＳＤＧｓ達成につながるのか検討が必要だと感じた。

事務局：
　第２期総合戦略アクションプランでは、ＳＤＧｓ で掲げられている１７のゴールのうち、密接な関連のあるゴールを１つ記載しているものである。
　ＳＤＧｓの１７のゴールと市の施策との関係については、第五次基本計画において関連性を明記している。

委員：
　アクションプラン３４ページの「①　東大和元気ゆうゆうポイント事業の実施」についてであるが、基本目標２が、健康寿命の延伸による人口の自然増を図る目的（目標）であるならば、対象年齢の引下げを検討されても良いかと思う。参考として、さいたま市の「健康マイレージ」は、１８歳以上が対象となっている。

事務局：
　現状では、高齢者福祉部門による事業として実施しているため、高齢者を対象としている。ご意見については、参考としたい。

（２）第２期東大和市ブランド・プロモーションアクションプラン（案）について（意見聴取）

委員：
　各実施目標、現状値、目指す取組の項目が、よりわかりやすく、達成の目標としやすい言葉や数値になっていると思った。

委員：
　全体的に非常に丁寧にまとめられている。
　東大和市は、都心へ通勤・通学する住民が住むベッドタウン。都内他自治体と差別化するのはかなり困難。アクションプランも恐らく他と似たり寄ったりの内容ではないか。
　ブランドメッセージ「ゆったり日和」から連想するのは、幼稚園や小学校から帰ってきた子どもたちが、家で待つお母さんに今日あったことを目を輝かせながら話している光景。そんな光景が見られる街にするためにはどうしたらいいかという視点で差別化を図ってみては。
　というのは、小生の住む首都圏の県庁所在市では日中、街中で専業主婦の姿をあまり見ない。外で働いているためで、残るは年寄りばかり、詐欺被害が増える遠因にもなっている。家庭という社会の最小単位の中で、子どもたちのために身を粉にして働いている専業主婦を時代遅れと見る空気が世に漂っているため、専業主婦が家に居づらい状況もある。女性を家に縛り付けるのは差別であるというフェミニストの思想も拍車をかけている。他地域もほぼ同じであろう。
　自治体の施策も、世の流れに合わせようとしているように思える。「乳児は肌を離さず、幼児は手を離さず、少年（女）は目を離さず」は子育ての名言だが、世の中は逆行、一日でも早く、母親と子どもを引離し、父親祖父母を巻き込み、託児所など子育ての外注化を促進している。託児所や学童などは万やむを得ない境遇の人が断腸の思いで利用していた制度だが、いまでは「雨露凌ぎ、ご飯が食べられ、着る衣服がある」状況の人たちでも共働きをするために利用している。育てられる子どもの視点に立つのでなく、育てる親の思いが中心の子育てになっており、子どもがかわいそうである。本末転倒の姿が、このコロナ禍の待機児道騒動で露になった。
　長くなったが、こんな世の流れに抗するような取組を行ってみてはどうか。確実に差別化できる。かつては「つの付く年齢（９つ）」までは、母親が家にいて子どもを迎えていた。

現代では中学に上がるまでは、母親が家に居られるような「子育て世代への支援」が出来る街ならば、人は自然に集まると思う。

事務局：
　他自治体との差別化の観点は、重要であると認識している。ご意見については、参考としたい。

（３）その他（自由意見）

委員：
　当市の今後のまちづくりを考えると、いかに他市町村と差別化を図り、当市の魅力を向上させていくか、知見と創造力が問われている。益々、企画財政部の推進力が期待されている。

委員：
　７年前、熊本、沖縄、またセントビンセントという開発途上国に住み、この東大和市に越してきたものの意見を、何か活かせるのではないのかと、創生会議委員に応募した。私自身の意見を話ができるとともに、いろいろな立場の委員の方々の意見を聞くことがとても有意義な時間だった。

委員：
　東大和市をより良いまちにするために、様々な計画と目標を立てて、各関係部署が連携して取り組んでいるということを知ることができて良かった。
　東大和市は子供を産み育てるにはちょうどいい街だと思う。私自身、第一子の入園前は孤立したくないために児童館や保健センターや子ども家庭支援センターかるがもなど、ありとあらゆる施設の方にお世話になった。特に公民館の保育付き講座は子供にとっても親にとっても成長できる場で、とても有意義だった。子供が大きくなった今でも公民館サークルとして活動している。
　今後は、健康づくりや生涯学習の環境整備、育児教育現場でのシニアの活躍、駅前や公園のイメージアップなどに期待している。

委員：
　東大和市は、住んでみると生活するのに「丁度良い」が程よく詰まったまちで、豊かな自然もあり、道路や公園も整備され、病院や商業施設も適度にあり、子育て世代にも、シニア世代にもとても住みやすいまちである。この度、策定する“第２期東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプラン„で、事業を進めていけたら、東大和市に住む全ての人々や、これから移住してくる全ての人々にとって、とても安心で潤いのある魅力的なふるさとになると思う。そして、愛着を持ち、ずっと住み続けたいと思うまちになると思う。
　様々な目標や計画の中、子育て目線から見て東大和市に足りないと思う部分がある。やはり、ターゲット世代を呼び込む、幼児向けの魅力的な場所がないことが大きい。市外の人に、「東大和市に行ってみたい」と、思ってもらう場所が足りない。
　“豊かな自然環境„が一番の東大和市の魅力であれば、“自然と一緒に一日中遊べる„をテーマに幼児親子向けの場所を作ってもいいと思う。（八王子市夕やけ小やけふれあいの里、高尾の森わくわくビレッジ、東村山市ころころの森など）
　また、学校の統合による廃校の利用で、特色のある魅力的な私立小学校の設立を、土地の販売とともに進めれば、ターゲット世代の移住も考えられると思う。（相模原市相模湖シュタイナー学園など）
　近年、コロナの影響で、自然が多く、都心にも出やすい、ほどほどの場所を選ぶ子育て世代が増えているようである。東大和市の魅力を伝える大きなチャンスなので、明るい東大和市の未来に期待している。

委員：

中小機構ＢｕｓｉＮｅｓｔは、創業支援拠点として、今後更に起業創業する人を増やしていくよう新たな取組を行っていく。

委員：

「「ＬＧＢＴＱ」による多様性に基づく婚姻」や「中学に上がるまでは、母親が家に居られるような「子育て世代への支援」」についての意見について、歴史や伝統を重んじた保守的な見方だが、声なき声として世間ではまだまだ根付いているはず。ただ、風雪に耐えて長年続いてきた慣習や制度を支持する人は、声高に主張しない。それらを壊して、世の中を変えたがる人は声も大きいし、口数も多い。コロナ禍はこれまでの世の中の流れを見直すいい機会。ＬＧＢＴＱや子育ての在り方などを、住民や自治体職員が講演会や市民講座などで学べる機会を設けてみては。